

宮城野区東仙台地区民生委員・児童委員協議会

(平成 25 年 12 月 13 日掲載)

(1) 東仙台地区の現在の様子について

① 地区の被災状況と現在の様子について

平成 23 年 3 月 11 日 (金) 14 時 46 分、定例会が終わろうとしたその時、強い地震が発生し (宮城野区震度 6 強)、全員テーブルの下および屋外に避難しました。長い揺れがおさまると同時に一斉に要支援者世帯等に安否確認に駆け出しました。その結果、単身高齢者 5~6 名程が軽症のほか、全員無事との報告がありました。

2 週間後に「緊急会議」を開きました。出席者は、連合町内会長、2 学区の地区社協会長、交番、地域包括支援センター (東仙台地区 2 名、燕沢地区 2 名)、民生委員・児童委員 16 名 (軽症者支援中、疲労等で 7 名欠席) でした。要援護者の支援状況や避難所に関する情報共有をはかり、今後の支援について話し合いました。

また、地域の小学校で避難所が開設されました。

東仙台小学校 (450~500 名程度)、東仙台中学校 (400 名以上満員)、

西山小学校・中学校 (100 人程度、3 月 11 日~21 日まで)

震災により、家屋倒壊、道路の液状化、J R の不通、ライフラインの途絶などの被害がありました。各ライフラインの復旧は、電気は震災後 3 日目の夜、水道は 6 日後、都市ガスは 18 日後であり、地域内でもばらつきがありました。

また、町内会で単独の仮避難所を設けたところは 7 町内会 (10 名~150 名程度) ありました。

地区社協のなかの「東仙台よろこびの会」(単身高齢者のふれあい活動) には、民生委員・児童委員も多数参加し、7 月に暑中見舞いを 250 通発送し、10 月には「ふれあい手造り弁当」250 食の調理配達などを行ないました。

そんな状況のなかで 2 年 7 か月が過ぎようとしている現在、民間住宅を借りて暮らしている方、また家屋の一部損壊被害を受けた多くの方は自力で補修し、生活されています。落ち着きを取り戻しているようにも見受けられますが、地域によっては高台住宅への擁壁工事が来年までかかる場所もあります。また他地区からの避難者で、民間借り上げ住宅で生活されている方は、早く地元に戻りたい、という気持ちで過ごしておられるようです。

② 被災者の暮らしと直面している課題について

民間借り上げ住宅で生活されている方は、震災前の住宅に比べて、手狭さを少なからず感じて生活していると思います。

被災者は口にこそ出ませんが、将来の復旧資金について心配し、不安を抱いている方もいます。また、他市からの避難者でアパートに住んでいる 3 人家族は、80 代の父親がいまだ行方不明とのことでした。

被災者の方々は、ほとんど何も持たず入居し、生活が落ち着かないうちから、周囲の人々に溶け込もうと大変努力している様子であり、一方で、そのような姿を温かく見守ってくれる人々が多くなっているようであり、うれしく思います。しかし、仕事

がパートや契約社員のため、安定した生活費の確保や住宅問題、心身の安定と健康問題などを心配しています。

(2) 東仙台地区民生委員・児童委員、民児協の活動

① 現在の活動について

現在、地区約 6,100 世帯を 23 名の民生委員・児童委員（うち主任児童委員 2 名）で担当しています。

5 月の活動強化月間には約 350 名いるひとり暮らし高齢者に対し、ティッシュボックスに「【お変わりございませんか】東仙台民生委員児童委員協議会」の言葉を添え、一人ひとりに声かけ運動を実施しました。

また、主任児童委員を中心に、毎月 1 回「子育てサロン」活動を実施しています。

震災後、認知症の症状が進んだり、体力が急に落ちたりした方がいて、定期的に声かけ、安否確認の活動を重点的に実施しています。

委員の中には震災後、他地区に転居された高齢者と連絡を取り、支援活動を継続している方もいます。

住民からかかってくる電話での相談に対応し、東仙台及び燕沢両地域包括支援センターの協力を得て活動を続けています。

② 民生委員・児童委員が活動する上での課題について

本来の活動地域では、全ての人びとが訪問してほしいと思っているわけではなく、そっとしておいてほしいと思っている方もいます。また、要介護認定を受けるようすすめても、他人の世話になるのが嫌だとなかなか受け入れてくれないこともあります。

震災後、生活保護世帯が増加し、その対処の方法で悩んでおり、ひとりで 20 数世帯を担当している委員もいます。

③ 民児協として、これからの取り組みについて

地区委員を長く続けるのはとても良いことだと思っていますが、マンネリにならないよう、お互いの情報交換ができる場を多く作っていきたいと考えています。

地区社協主催の災害時の自助、共助をテーマにした研修会を社協、連合町内会、民児協の連携を図りながら行なうとともに「地域での日頃の福祉活動、ならびに災害時の連携について」の座談会を定期的に行ない、意識を高めていきたいと思っています。

④ 全国の民生委員・児童委員に伝えたいこと・・・そしておわりに

当地区は比較的被害は少ない地域でしたが、沿岸部の方々の被害が甚大だったこと、そして住民の一人ひとりが復興に向かって努力されていることを知っていただければ幸いです。

私たちは自分に課せられた任務を遂行するのも大事ですが、自分自身を大切にするために、時折立ち止まって考えることも必要です。

最後になりましたが、全国の多くの皆様から手厚い支援とお見舞いをいただき、本当にありがとうございました。心より感謝を申し上げます。